

あいち病害虫情報 最新情報

令和 7 年 9 月 1 7 日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

向こう 1 か月の気温は高い見込み

名古屋地方気象台 9 月 11 日発表の 1 か月予報によると、向こう 1 か月の気温は高く、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。また、降水量及び日照時間はほぼ平年並の見込みです。

水稻の病害虫

トビイロウンカの発生は、8 月下旬の巡回調査において確認されませんでした。予察灯においては長久手市で 9 月 9 日に誘殺（1 頭）が確認されました。トビイロウンカがほ場に定着している場合、今後、坪枯れが発生する可能性がありますので、ほ場の状況をよく確認しましょう。坪枯れが近隣のほ場を含めて発生した場合は、収穫までの日数を考慮の上、防除あるいは早めの収穫を行いましょう。

弥富市に設置している予察灯において、ニカメイガの誘殺が多い状況が続いています。幼虫による被害が出る可能性があるため、ほ場での発生状況に注意し、発生が目立つ場合は収穫前日数を考慮して防除を実施しましょう。また、本種は収穫後の刈り株や畦畔雑草で越冬します。収穫後は、刈り株の早期すき込みや畦畔の除草を実施しましょう。

ダイズのチョウ目害虫の発生に注意

ダイズほ場に設置したフェロモントラップでは、ハスモンヨトウ及びオオタバコガの誘殺数はやや多い～平年並、シロイチモジヨトウの誘殺数は概ね平年並の状況です。

向こう 1 か月の気温は高いと見込まれており、今後、これらのチョウ目害虫の増殖に好適な条件が続くと予想されますので、今後の発生状況に注意しましょう。また、本日発表の「オオタバコガ情報第 4 号」を参考にしてください。

ダイズの吸実性カメムシ類

県内各地に設置した予察灯におけるミナミアオカメムシの誘殺数はやや多い状況です。向こう 1 か月の気温は高いと予想されており、本種の活動に好適な条件となる可能性があります。また、水稻収穫済みの水田から近隣のダイズほ場にミナミアオカメムシ等が移動する可能性があるため、子実肥大初期（開花 30～40 日後）に防除を行いましょう。詳細は 9 月 2 日発表の「吸実性カメムシ類情報第 1 号（ダイズ）」を参考にしてください。

果樹カメムシ類の発生に注意

果樹カメムシ類の 9 月上旬の予察灯及びフェロモントラップにおける誘殺数は平年並ですが、一部ほ場（カキ園）への飛来が確認されています。向こう 1 か月の気温は高いと予想され、今後も果樹カメムシ類が活発に活動し、果樹園への飛来が増加するおそれがあります。ほ場での発生状況に注意し、果樹カメムシ類を確認したら速やかに防除しましょう。

果樹の病害

ブドウべと病については、早期落葉および次作の越冬伝染源量を減らすため、収穫後に I C ボルドー 4 8 Q など秋期防除を実施しましょう。また、罹病落葉が次作の第一次伝

染源になるので、落葉は園外に持ち出し適切に処分しましょう。

モモせん孔細菌病については、病原菌が枝や落葉痕部の組織内で越冬し次作の伝染源になります。枝病斑の除去やＩＣボルドー４１２などの農薬散布による収穫後の秋期防除を実施しましょう。なお、農薬使用の際は使用上の注意をよく読み、薬害などに注意しましょう。

野菜類、花き類のチョウ目害虫

ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ、オオタバコガに注意

ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウの９月上旬の巡回調査におけるキャベツほ場での幼虫の寄生株率は平年並の状況ですが、フェロモントラップによる誘殺数は一部地域で多くなっています。向こう１か月の予報では、気温は高く、降水量はほぼ平年並と予想されており、両害虫の増殖に好適な条件が続くため、注意が必要です。８月１日発表の「令和７年度病害虫発生予察注意報第５号（ハスモンヨトウ）」及び「令和７年度病害虫発生予察注意報第６号（シロイチモジヨトウ）」を参考に、ほ場をよく観察して早期発見に努め、防除しましょう。

オオタバコガの９月上旬の巡回調査におけるキャベツほ場での幼虫の被害株率はやや多い状況です。また、フェロモントラップにおける成虫の直近１か月の総誘殺数はやや多い状況が続いています。詳細は本日発表の「オオタバコガ情報第４号」を参照してください。

ハイマダラノメイガの９月上旬の巡回調査におけるキャベツほ場での寄生株率は平年並の状況です。育苗中や定植直後に食害されると被害が大きくなるので、早期発見に努め、防除を徹底しましょう。

コナガの９月上旬の巡回調査におけるキャベツほ場での寄生株率は平年並です。ほ場をよく観察して、早期発見に努め、防除しましょう。

ブロッコリー、キャベツは黒すす病に注意

近年発生が増加しています。本病は孢子により空気伝染し、病斑は下位葉から上位葉や花蕾へ広がり、一度発生が広がると防除が困難になります。育苗中は高温多湿を避け、早期発見に努めるとともに発病株は速やかに処分しましょう。ブロッコリーでは一部系統の殺菌剤の感受性が低い菌株を確認していることから、薬剤選択は指導機関に相談しましょう。本病の詳細については、７月２日発表の「令和７年度病害虫発生予察特殊報第３号」及び７月１６日発表の「ブロッコリー黒すす病情報第１号」を参照してください。

アブラナ科野菜の細菌性病害

黒腐病、軟腐病等の細菌性病害は降水量が多いと発生が増加します。また、植物体の傷は、病原菌の侵入口となるので、激しい風雨によって傷ができた場合や、害虫の食害痕が多い場合も発生を助長します。激しい風雨が予想される場合は、事前に農薬を散布するとともに、排水の悪いほ場では排水対策をしましょう。

トマト、ミニトマトの黄化葉巻病、黄化病

トマト、ミニトマトでは、トマト黄化葉巻病の病原ウイルスを媒介するタバココナジラミやトマト黄化病の病原ウイルスを媒介するコナジラミ類を防除するとともに、感染株は発見次第抜き取り、適切に処分しましょう。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/index.html>）を参照してください。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病虫害防除室
TEL 0561-41-9513 FAX 0561-63-7820